

PBL II -51 行為と記録2019／Project Based Learning II

担当教員／Instructor 笠原 恵実子, 海老塚 耕一, 小林 晴夫

対象学年／Eligible grade - 開講学期／Semester 2019年度／Academic Year 通年／One-Year

授業形態／Type of class

時間割コード／Registration Code PB51

単位数／Credits 2

備考／Remarks

オフィスアワー／Office hours

【サブタイトル／Subtitle】

【授業のねらい／Course Objectives】

美術大学の学科編成の中でどこにも属することが難しいパフォーマンスやハプニングといった表現の可能性を、横断的授業形態であるPBLの中で探っていく。記録をする事で恒久的な展示が可能となるパフォーマンス/ハプニングの作品例を紹介するとともに、その意味と方法論を実際の制作を通して学んでいく授業であり、学生は年間を通して2回作品を作り、後期後半に行う展示へ向けてそれぞれが準備をしていくこととなる。授業はディスカッション形式を中心に進められ、アートの国際基準であるディベート力を養うことも、大きな課題としている。

【到達目標／Course Goals】

- 1, パフォーマンスやハプニングといった表現形態を視覚化し、観者に伝える技術を身につける。
- 2, 他者との対話や情報の共有を積極的に行う中から、ディベート力を養う。
- 3, 自身と同時代のアート及びその構成要因となる社会・政治・経済・歴史的背景を思索する視点を持つ。

【授業の展開計画／Class schedule】

- 1週 一年を通した授業の概要と基本テーマの説明を行い、戦後以降現代美術を中心に参考作品の紹介と考察を行う。
- 2週 前週に説明したテーマに基づきグループ ディスカッションを行う。戦後以降現代美術を中心に参考作品の紹介と考察#2を行う。
- 3週 前週のグループ ディスカッションの継続と授業で用いる記録媒体を学ぶ#1を行う。
- 4週 前週のグループ ディスカッションの継続と授業で用いる記録媒体を学ぶ#2を行う。ドローイング、マケットなど用いる場合のその方法と効果にも言及。
- 5週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 6週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 7週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 8週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 9週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 10週 作品発表1 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 11週 作品発表2 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 12週 作品発表3 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 13週 作品発表4 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 14週 作品発表5 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 15週 総評 前期の全体講評
- 16週 前期の発表を振り返り後期授業の概要と展示スケジュールを再確認する。戦後以降現代美術を中心に参考作品の紹介と考察を行う。
- 17週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 18週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 19週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 20週 作品構想のプレゼンテーション 一人ずつのパフォーマンスもしくはハプニングの構想、それを記録する方法、展示方法を発表する。
- 21週 作品発表6 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 22週 作品発表7 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 25週 作品発表8 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 26週 作品発表9 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録を行う。
- 27週 作品発表10 一人当たり20分内でパフォーマンスもしくはハプニングを行い、記録も可能な限りその場で行う。
- 28週 作品展示 展示可能なギャラリー（学校内または学校外）において発表展示を行う。
- 29週 総評と作品搬出 上記ギャラリーにおいて講評、搬出を行う。
- 30週 一年間の総評を行う。

【履修上の注意事項／Notices】

コンピューター、カメラ、ビデオ機器などを持っていると望ましい。

【評価方法／Evaluation】

制作内容、授業における積極性と貢献度、出席数などの総合評価によるが、特に年度末の展示への参加は大きな評価基準となる。

【テキスト／Textbooks】

現時点で特にないが、ある場合は授業内でその都度指示を出す。

【参考文献／Bibliography】

現時点で特にないが、ある場合は授業内でその都度指示を出す。
特になし

【準備事項／Preparation】